

インターネットと流通構造の変化 (1)

インターネットがなぜか一気に普及し、インターネットでのショッピングが一部で使われ始めています。インターネットのショッピングでは、個人でホームページを開設する以外に、ベンチャー企業を含めコンピュータメカ、放送業者、流通業者などがショッピングモールという複数店舗のホームページを開設して営業を行っています。これまでのインターネットショッピングは、カタログショッピング、TVショッピングなどの延長線として捉えられる部分が多かったのですが、ここで流通構造の変化が今後のインターネットショッピングの更なる拡大の予感がすぐそこまで近づいてきています。

流通構造の変化は、これまでのような生産者から消費者の間に何段階もの中間業者の存在がまったく必要無く、更に生産者においても一部必要の無くなる部分が出てくることに有ります。これの今もっともホットな物が「MP3」です。これは動画の圧縮技術である「MPEG」を使って音声を圧縮したもので、初めは携帯用録音機などでしたが、簡単にクリアな圧縮が可能であるためか、この技術を使って音楽を圧縮してホームページに登録し無料でダウンロードするものが出てきたため問題となりました。MP3で圧縮すると音楽データがディスク上にデータとして保存できるばかりでなく、携帯用再生機にダウンロードして持ち運ぶことによって今のヘッドホンステレオの代りになります。いま音楽業界は、著作権の保護、著作権料の徴収、これまで可能であった個人的録音への対応などの技術的、法的問題を解決して新しいものに対応しようとしています。つまり、レコード会社がホームページを持ち、有償でダウンロードすることによって現在の販売と同様に収入を得ようとするようになります。このことにより、消費者は1曲からの購入が可能となり、MDに録音する場合でも消費者が自由な組合せで自分だけの1枚を作ることができます。この場合、CDなどを作る工程、ジャケットの写真の撮影が必要無くなるばかりか、運搬梱包、中間業者、レコード店などの販売業者すら必要無くなり、完成したその日に販売までが可能となります。また、極端な場合、レコード会社自体が必要無く、アーティストが自分の個人ホームページでの販売も可能です。

音楽と同様に書籍も流通構造の変化が考えられます。印刷された本の必要性がどこにあるのが構造変化の中心です。以前電子ブックが発売されたことがありましたが、また同様のものが考えられています。小説や文学などをデータとして販売し、携帯端末程度の端末で表示し読もうとするものです。電車の中などで読もうとするのであれば十分ですし、電子化されていけば音声での読み上げも可能となります。その他の書籍は事典などは必要なときに最新のものが見れば良いわけですから、インターネットで検索することによって現在でも用が足ります。参考書も同様で、重要なところがあればダウンロードすれば良いわけですから本としての必要性は薄れてきているのではないのでしょうか。本の束は、自己満足の塊のような気がします（私の家も本でつぶれそうですが）。（続く）

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 8月9日号

特集 これでインターネットは安くなる

→新規参入と新技術でいよいよ導入となる定額料金。CATVなどのサービスを衷心に1万円以下の定額となればサービスから流通形態まで影響を与える。

解説 DVDの次世代を狙う技術提案がひしめく

→ハワイで開催された国際会議でDVDの次世代光ディスクに関する発表が相次ぎ、HDTV並みの画像を記録再生できるレコーダ、プレーヤを目指している。

○日経オープンシステム 8月号

特集 デフォルト設定の落とし穴

→OSやRDBMSなどにはデフォルト設定がある。よくこの設定のまま使うことが多いが、そのままでは思った性能が出なかったり、突然システムが停止したりすることがあるむ。トラブルを未然に防ぎリソースを最大限に活用して性能を上げるための設定は。

特集 オープン・ソース・ソフトウェアの実力

→これまでマイナーであったフリーソフトが企業システムの開発基盤として実用期に入ってきている。これらのフリーソフトはソースをオープンにすることによってインターネットの豊富な情報やコミュニティ活動が大きな魅力となっている。

○日経ネットビジネス 9月号

特集 ネットビジネスの落とし穴

→ネットビジネスに先行している企業も昨年末には「アクセスが多いが商品がまったく売れない」などの“最悪”の時期を迎えていた。ネットに潜む5つのわななど具体例を元に危機脱出を図るには。

特集 本番！音楽配信ビジネス

→「MP3」の衝撃は日本を直撃している。音楽のインターネットでの配信がいよいよ始まる。音楽データを暗号化することによってコピー回数の制限を可能にし1曲200円程度での販売となる。

○PCWORLD 9月号

特集 グラフィックボード交換で効果的にマシンをアップグレード

→新しいマシンが登場し、Windows 2000の発売を控え買い替えやアップグレードの時期になっている。しかし、Pentium II 266MHzからCeleron 400MHzにしても対して性能は変わらない。使い方にもよるがグラフィックボードを交換するほうがコストパフォーマンスが高い。

特集 ネットワーク必携のお便利ツール&パワーアップツール

→インターネットを使うときのパワーアップツール。ファイルのアップロード、ダウンロードから画像のマスクツールまで。

○DOS/V magazine 9月1日号

特集 最強CPUバトル! 600MHz 決戦

→互換CPUメーカーのAMDから600MHzのAthlon (K7) が出荷となり、これまでローエンド市場でのシェア争いからハイエンド市場での争いへと移りつつある。最新最強CPUの動向は。

特集 至高のソフトウェアDVD環境

→ソフトウェア供給媒体として認知されつつあるDVD。そのDVD-Videoにスポットを当ててパソコンでの対応状況について特集。

特集 超高速! IDE RAIDに挑戦

→RAIDは複数のHDDを組合せることによってHDDアクセスの高速性をはかたり、故障に対する対障害性を高める手法で、IDE RAIDはおもにボトルネックとなるHDDアクセスを高速化することを目的とする。